

# 株主・投資家の皆さまとの対話

当社では経営や事業、ESG観点での取り組みについて理解を深めていただくことを目的に、国内外機関投資家およびアナリストの皆さまと、決算説明会や個別面談、カンファレンスなどの機会を通して、積極的に意見交換をさせていただいています。

2023年度は経営陣およびIR担当によるIR面談、サステナビリティや総務・法務担当も加え

たESG/SR面談を含め約280回の対話の機会をいただき、経営の質向上につなげています。

以下は対話の中でよくいただいたご質問やご意見です。本レポート内のこれらのご質問やご意見に対応した回答／関連するコンテンツはページリンクにてご参照ください。関連するページの右上には該当する **Q** を記載しています<sup>\*1</sup>。

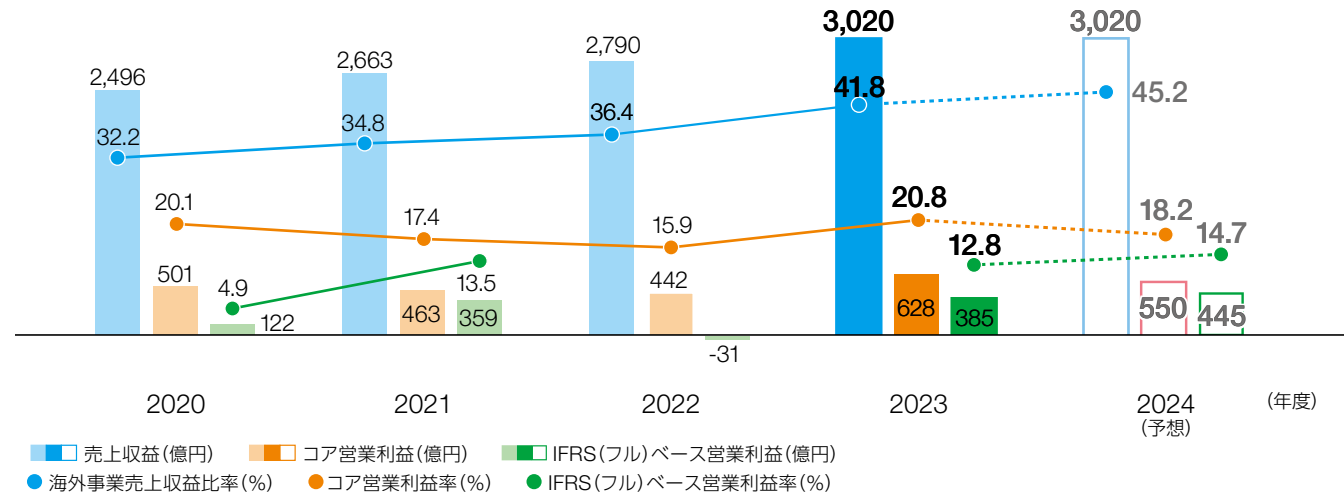
分類	ご質問・ご意見	Santen Report 2024該当ページ
経営	Q1 構造改革を含め、中期経営計画に対する進捗を教えてください。	➡ CEOメッセージ (P.4~5) ➡ CFOメッセージ (P.13~16)
	Q2 中長期成長を実現するための戦略やSantenの強みを聞かせてほしい。	➡ CEOメッセージ (P.6) ➡ 価値創造プロセス (P.10) ➡ COOメッセージ (P.17~19) ➡ 地域戦略 (P.20~23) ➡ 社会的意義のある製品の市場浸透 (P.31~33) ➡ 多様な人材が活躍できる職場環境 (P.36~37)
	Q3 3期連続で自己株式取得を実施されている。将来成長のための投資も重要と考えるが、資本配分や株主還元についてどのような考えか？	➡ CFOメッセージ (P.16)
事業・R&D	Q4 長期収載品の選定療養化や主力製品の後発品上市などが想定されている日本事業の今後の見通しは？	➡ COOメッセージ (P.18~19) ➡ 地域戦略 (P.22) ➡ 社会的意義のある製品の市場浸透 (P.31~32)
	Q5 短期的に日本事業の成長が鈍化する中で重要性を増している海外事業の成長機会を知りたい。	➡ COOメッセージ (P.18~19) ➡ 地域戦略 (P.22~23) ➡ 社会的意義のある製品の市場浸透 (P.33)
	Q6 2026年度以降の成長ドライバーと期待している近視や眼瞼下垂のポテンシャルは？	➡ CEOメッセージ (P.6) ➡ 新領域での患者さんへの貢献拡大を目指した製品創製 (P.28~30)
	Q7 Santenのポテンシャルをはかるうえで、眼科の市場や疾患、患者数など基本的なことを教えてください。	➡ 新領域での患者さんへの貢献拡大を目指した製品創製 (P.28、30) ➡ 社会的意義のある製品の市場浸透 (P.32) ➡ 眼科薬市場データ (P.76)
サステナビリティ	Q8 取締役会ではどのような課題認識のもと、どのようなテーマで議論が行われているのか？ また、それに対して社外取締役がどのような意見を述べているのか？	➡ 取締役会議長メッセージ (P.47) ➡ 指名委員会・幹部報酬委員会 新委員長メッセージ (P.48) ➡ 社外取締役との対談 (P.49~52) ➡ コーポレートガバナンス (P.54)
	Q9 主要工場がある地域で大きな地震があったが、リスクマネジメントに関して気づきなどはあったか？	➡ 社外取締役との対談 (P.50) ➡ リスクマネジメント (P.65~66)
	Q10 サステナビリティコミットメントで自社と社会の持続的な発展を目指すと言われている。事業活動は社会にどのような影響を与えるのか？	➡ CEOメッセージ (P.6~8) ➡ マテリアリティのKPIと進捗 (P.12) ➡ サステナビリティコミットメント (P.27) ➡ 医療アクセスの向上 (P.34~35) ➡ 地球環境保全 (P.42~45)
	Q11 組織風土や人材に関してどのような取り組みを行っているか？	➡ マテリアリティのKPIと進捗 (P.12) ➡ 人的資本戦略 (P.24~26) ➡ 多様な人材が活躍できる職場環境 (P.36~37) ➡ 基本理念の浸透 (P.38~39) ➡ 全社で挑むDX (P.40~41)
	Q12 気候変動などへの関心の高まりを受け、企業の環境に対する取り組みもより一層重要視されている。Santenならではの取り組みはあるか？	➡ マテリアリティのKPIと進捗 (P.12) ➡ 地球環境保全 (P.42~45)

## ・成果と重要な 成果指標・データ

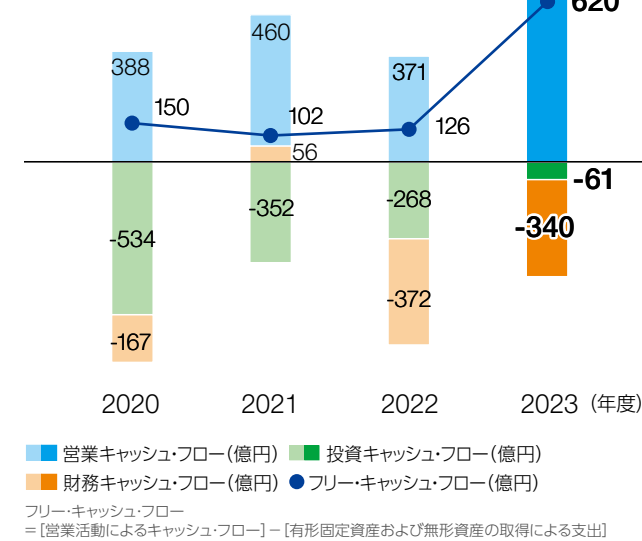
\*1 複数ページにまたがる場合は最初のページに記載

# 財務・非財務ハイライト(財務)

売上収益および海外事業売上収益比率、コア／IFRS(フル)ベース営業利益・営業利益率

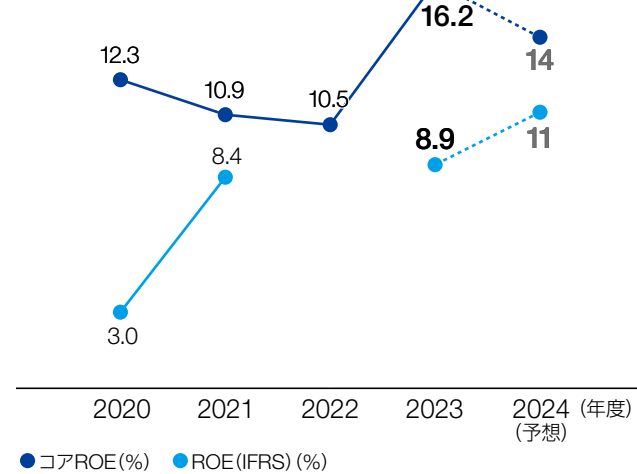


キャッシュ・フローの推移

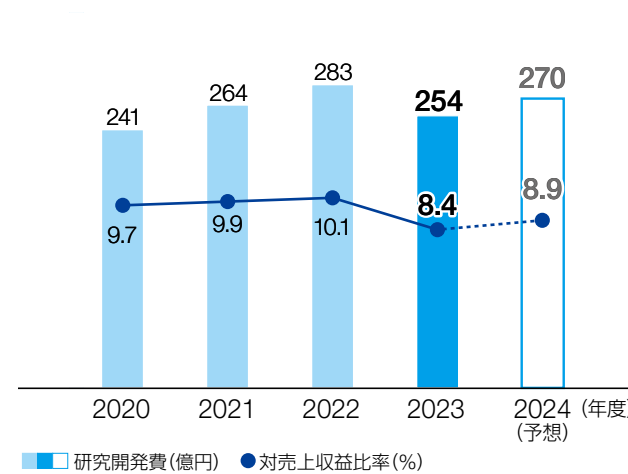


## 成果と重要な 成果指標・データ

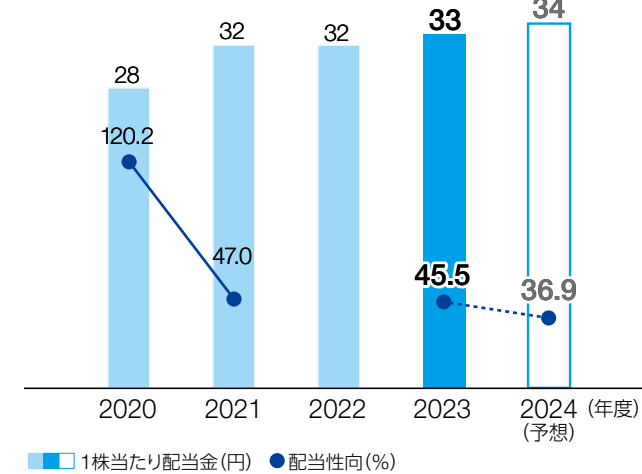
ROE



研究開発費、対売上収益比率



1株当たり配当金および配当性向



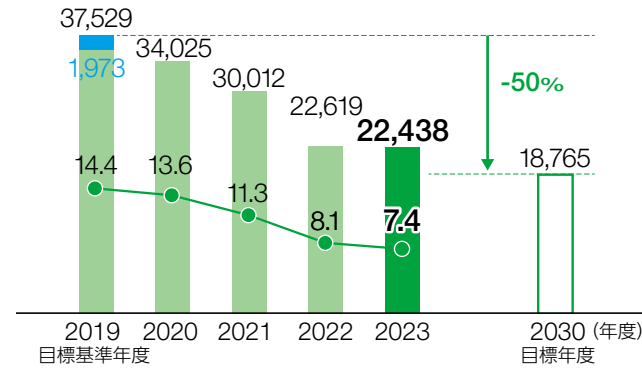
InnFocus, Inc. (米国)に係る無形資産の減損などに伴う減損損失などの影響により、2020年度の配当性向は120.2%となりました。

※2024年8月6日の第1四半期決算発表において、為替レートを含む前提条件の変更により期初に開示した業績予想を修正しています。本ページには修正後の予想値を記載しています。

# 財務・非財務ハイライト(非財務)

## 環境

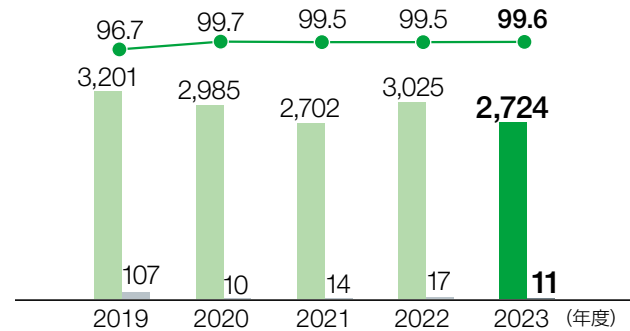
CO<sub>2</sub>排出量



■ CO<sub>2</sub>排出量(トン-CO<sub>2</sub>)  
 ■ 海外営業車ガソリン量由来のCO<sub>2</sub>排出量(推定値)(トン-CO<sub>2</sub>)  
 ● 売上収益原単位(トン-CO<sub>2</sub>/億円)

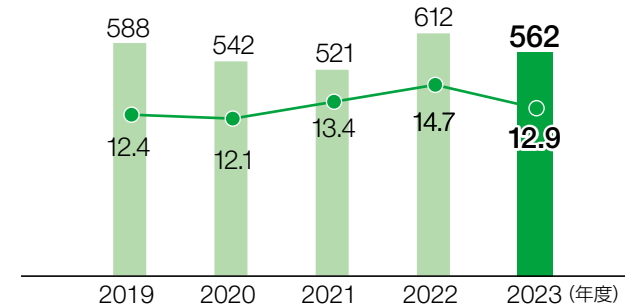
※2030年度目標の設定に伴い、パウンダリーおよび算定方法をSBT基準に見直し、2019年度以降のCO<sub>2</sub>排出量を見直しました。基準見直し前のCO<sub>2</sub>排出量は、旧タンペレ工場(フィンランド)の排出量を含みます。2019年度のCO<sub>2</sub>排出量には海外営業車ガソリン量由来のものを含みます。

廃棄物排出量など



■ 廃棄物排出総量(トン)  
 ■ 埋立処理量(トン)  
 ● リサイクル率(非埋立処分量)(%)

水使用量

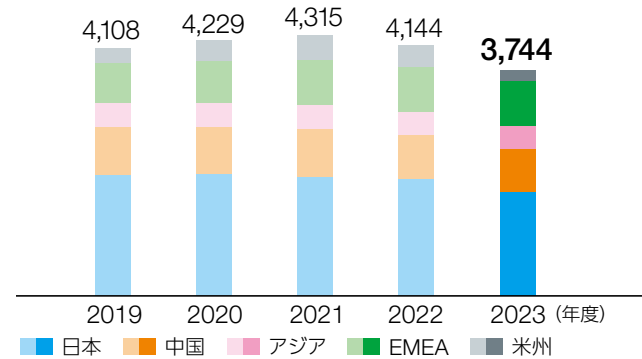


■ 水使用量(千m<sup>3</sup>)  
 ● 生産数量原単位(m<sup>3</sup>/万本)

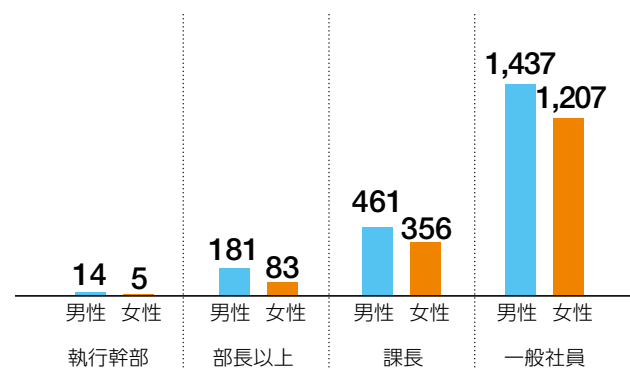
・ 成果と重要な  
 成果指標・データ

## 人材

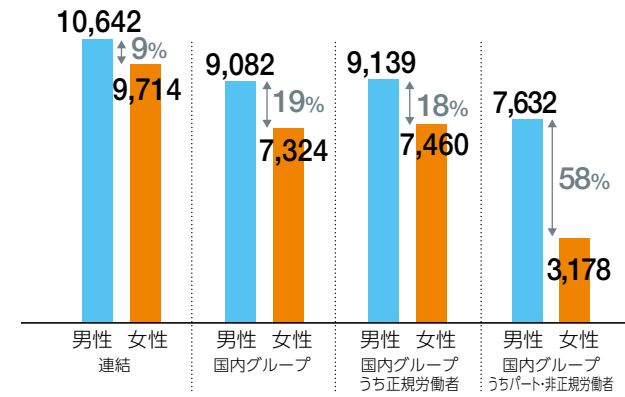
従業員数(名)



連結男女別階層別従業員数(名) (2023年度)



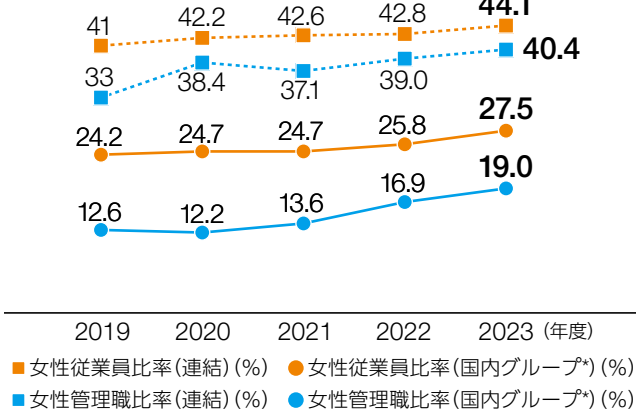
男女別平均給与(千円) (2023年度)



※男女賃金差異について、賃金制度・体系において性別による差異ではありません。男女賃金差異は主に男女間の管理職比率および雇用形態の差異によるものです。役員報酬およびストックオプションは除外しています。

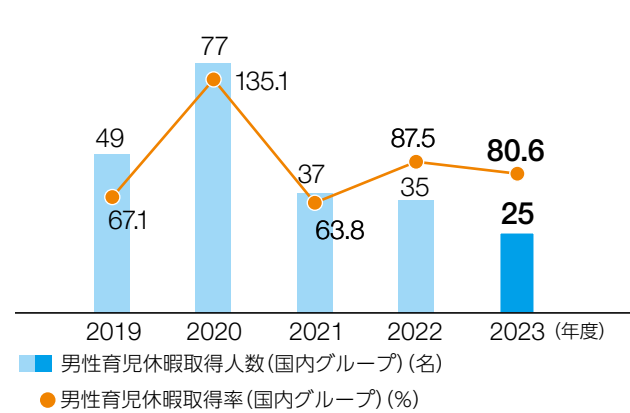
人材

女性従業員比率・管理職比率



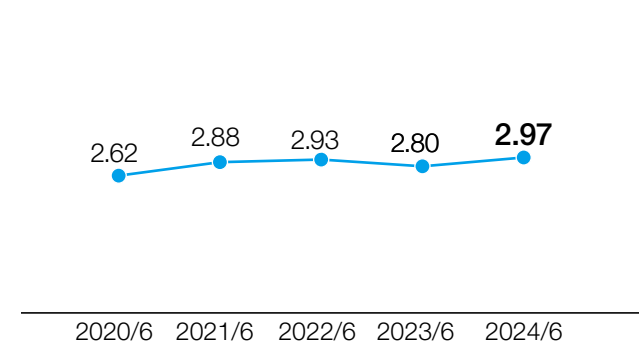
\* 2021年度までは単体  
 ※連結の女性従業員比率・管理職比率は2020年度から集計方法を変更しました。

男性育児休暇取得



※男性育児休暇取得人数・取得率は2021年度から集計方法を変更しました。

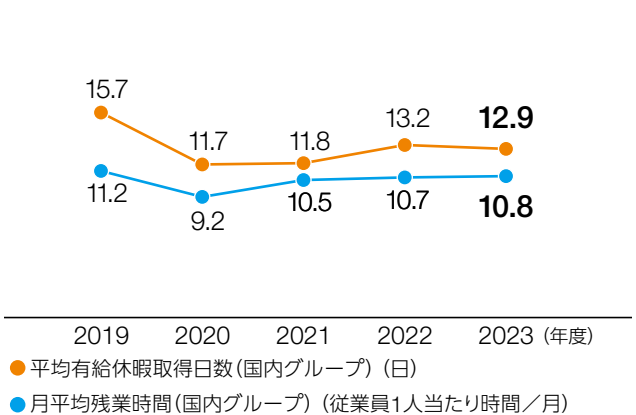
障がい者雇用率 (%)



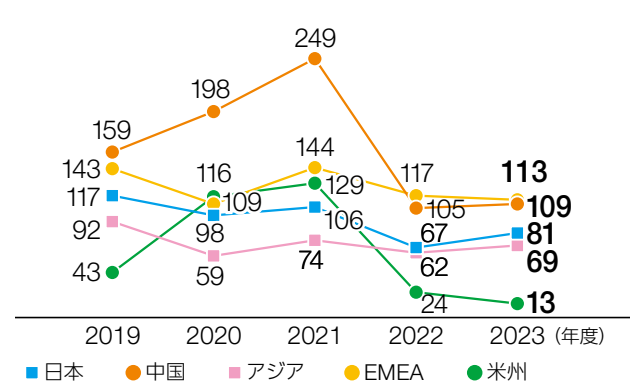
※参天製薬株式会社および国内連結子会社

• 成果と重要な  
成果指標・データ

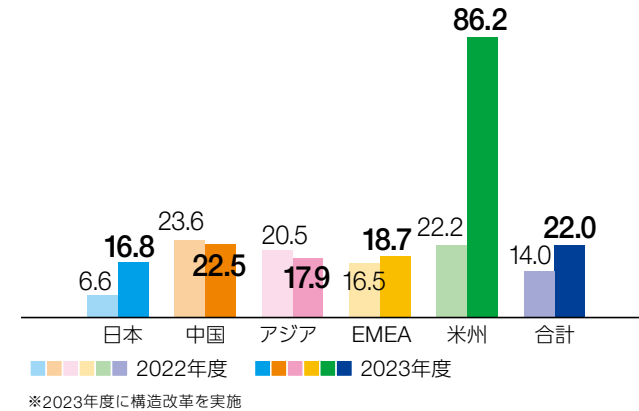
平均有給休暇取得日数、月平均残業時間



採用人数 (名)



離職率 (%)



※2023年度に構造改革を実施

# 経営成績および財務分析 (MD&A)

## 2023年度の経営成績の状況

当連結会計年度の売上収益は、日本では薬価改定の影響などがあったものの主力製品の拡大に注力したことに加え、中国での前年の新型コロナウイルス感染症の再拡大からの市場の回復や、アジア・EMEAでも主力製品が堅調に推移したことから、3,020億円(前期比8.2%増)の増収となりました。コアベースの売上総利益は海外の成長による売上の増加、地域・製品構成の変化などにより、1,789億円(同7.7%増)となりました。販管費及び一般管理費はコスト最適化と米州の合理化を含む構造改革の進展、ロイヤルティの減少により908億円(同2.9%減)、研究開発費は一部プロジェクトの開発スケジュールの変更や、計上時期の変動の影響により253億円(同10.7%減)となり、結果としてコア営業利益は628億円(同41.9%増)となりました。なお、米州の合理化に関する費用7億円を加えたIFRS(フル)ベースの販管費及び一般管理費は915億円(同4.9%減)となりました。

製品に係る無形資産償却費は95億円(同0.5%減)、主に米州における医療用医薬品事業に係る一部製品の資産譲渡によりその他の収益は15億円となりました。また網膜前駆細胞を主成分とする細胞治療製剤の製品に係る無形資産について事業計画の見直しなどの影響により減損損失を計上したこと、ならびに日本における早期退職特別支援プログラムに伴う

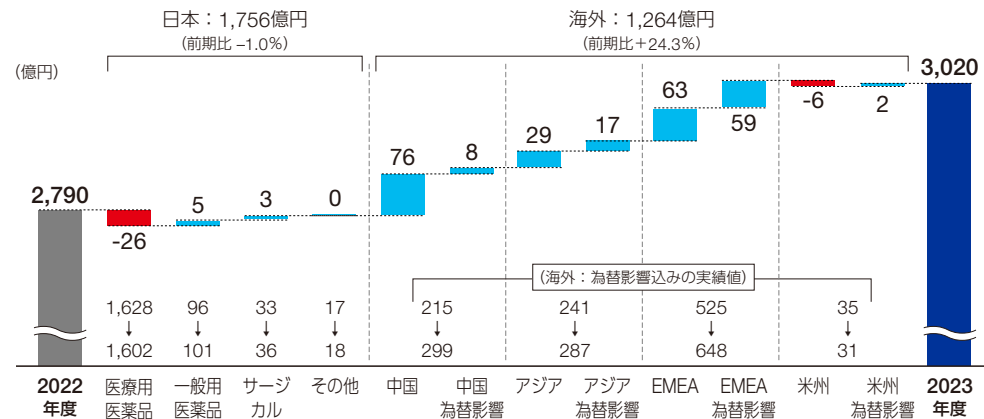
退職特別加算金および米州における医薬品販売事業の最大限の合理化などに伴う費用により、その他の費用は153億円となりました。結果としてIFRS(フル)ベースの営業利益は385億円(前期は31億円の営業損失)となりました。

金融収益は16億円、金融費用は27億円となりました。持分法を適用しているTwenty Twenty Therapeutics LLC(米国)とPlano Pte. Ltd.(シンガポール)の損益のうち、当社の持分に帰属する金額、および両社の持分法による投資について減損損失を計上したことにより持分法による投資損失は76億円となりました。

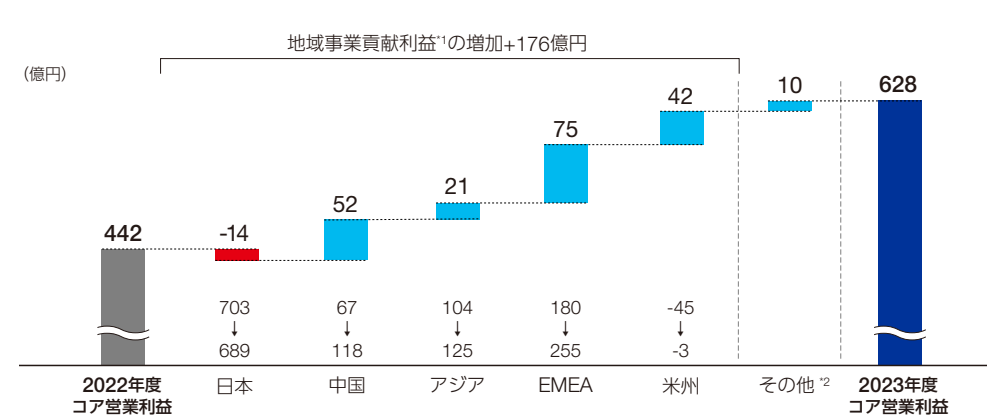
法人所得税費用は、前期と比べて60億円減少し、32億円となりました。これは主に、上述のIFRS(フル)ベースの営業利益の増加に伴う税引前当期利益が増加した一方で、在外子会社の事業環境および今後の業績動向などを勘案し、繰延税金資産を認識したことによるものです。これらにより、当期利益は267億円(前期は150億円の当期損失)となり、親会社の所有者に帰属する当期利益は266億円(前期は149億円の親会社の所有者に帰属する当期損失)となりました。

### 成果と重要な成果指標・データ

2023年度売上収益増減要因



2023年度コア営業利益増減要因



\*1 地域貢献利益の増加につながる一部機能の組織変更の影響などを含む \*2 各地域およびグローバルでのR&Dや間接部門の費用など

## 地域別売上収益、貢献利益

日本の医療用医薬品事業では、2%台前半の薬価改定の影響はありましたが、ドライアイ治療剤「ジクアスLX」や抗アレルギー点眼剤「アレジオンLX」など主力製品の拡大に注力した結果、前期と比べ1.6%減少し、1,602億円となりました。一般用医薬品は、高価格帯品に加え、スイッチOTC製品「ヒアレインS」、「サンテFX」シリーズに注力し、前期と比べ5.2%増加し、101億円となりました。医療機器は、「プリザーフロ マイクロシャント」の販売が堅調に推移し、前期と比べ9.8%増加し、36億円となりました。これらの結果、日本の売上収益は前期と比べ1.0%減少し、1,756億円となりました。貢献利益については前期と比べ2.0%減少し689億円、貢献利益率は39.2%(前期比0.4ポイント減)となりました。

中国は前期の新型コロナウイルス感染症の再拡大から回復し、主力製品が好調に推移した結果、円換算ベースで前期と比べ38.6%増加し(為替影響を除いた成長率は35.1%増)、299億円となりました。貢献利益については前期と比べ77.5%増加し118億円、貢献利益率は39.6%と、8.7ポイント上昇しました。

アジアは韓国など主要国で主要製品が堅調に推移し、円換算ベースで前期と比べ18.9%増加し(為替影響を除いた成長率は11.9%増)、287億円となりました。貢献利益については前期と比べ20.7%増加し125億円、貢献利益率は43.6%と0.7ポイント上昇しました。

EMEAは領域別市場シェア1位<sup>\*1</sup>の緑内障製品を中心に伸長し、当期に「Ikervis」の保険償還の精算額の見直しを行った影響もあり、円換算ベースで前期と比べ23.3%増加し(為替影響を除いた成長率は12.1%増)、648億円となりました。貢献利益については前期と比べ41.3%増加し255億円、貢献利益率は39.4%と、5.0ポイント上昇しました。

米州は2022年度の第3四半期より実施している医薬品販売事業の最大限の合理化により、円換算ベースで前期と比べ11.8%減少し(為替影響を除いた成長率は16.5%減)、31億円となりました。貢献損失は2.6億円となり、赤字幅が前年度比で42.3億円縮小しました。

## • 成果と重要な 成果指標・データ

## 資産および資本・負債の状況

当期の資産は、4,357億円となりました。営業債権及びその他の債権の流動化などによる減少および無形資産の減少などがあった一方、現金の増加、繰延税金資産の増加および蘇州新工場建設に伴う有形固定資産の増加などにより前期末と比べ145億円増加しました。

資本は、3,054億円となりました。自己株式の取得による資本圧縮効果の一方、利益剰余金およびその他の資本の構成要素の増加などにより前期末と比べ121億円増加しました。なお、2024年3月29日に154億円(12,000千株)の自己株式の消却を実施しました。

負債は、1,303億円となりました。前期に計上した事業構造改革に伴う引当金の減少などがあった一方、預り金の増加に伴うその他の流動負債の増加などにより前期末と比べ24億円増加しました。

以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は、前期末と比べ0.4ポイント増加し、70.2%となりました。



## キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、726億円の収入(前期は、371億円の収入)となりました。当期利益267億円、減価償却費及び償却費182億円、営業債権及びその他の債権の流動化などによる減少184億円、ならびに法人所得税の支払額121億円などによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、61億円の支出(前期は、268億円の支出)となりました。有形固定資産の取得による支出93億円などによるものです。また政策保有株式の見直しを継続して実施しており、当期は4銘柄の投資の売却による収入が41億円ありました。

当期の設備投資額は、102億円となりました。製造設備および研究開発用機器の更新に加え、拡大を続ける需要に対し、安定供給のための生産能力確保を目的として、中国の現地

法人 参天製薬(中国)有限公司の新工場に係る投資を継続しています。今後、見込まれる市場成長に対し、キャパシティを構築することで、グローバルでの競争優位を確立し、さらなる事業の成長につなげていきます。また、事業のグローバル展開を支え、業務標準化と抜本的な生産性向上を目的として、次世代ERPへの投資などを継続しています。

財務活動によるキャッシュ・フローは、340億円の支出(前期は、372億円の支出)となりました。自己株式の取得による支出170億円および配当金の支払額119億円などによるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当期末残高は、前期末と比べ367億円増加し、946億円となりました。

## 2024年度の見通し

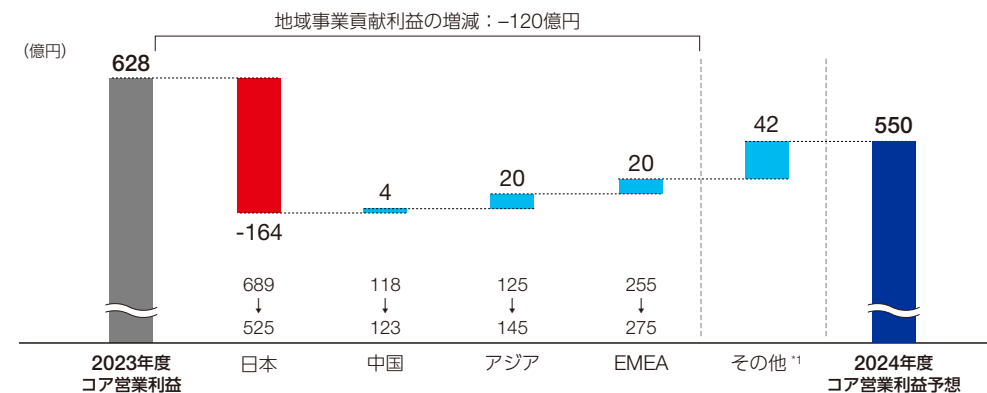
売上収益は前期と同等の3,020億円を予想し、会社の事業活動自体の収益性を示すコア営業利益は550億円、対前期12.4%減を見込んでいます。売上収益については、海外事業は安定的な成長を想定していますが、国内事業は後発品や薬価改定、ドライアイ治療剤「ジクアスLX」の通期出荷停止、長期収載品の選定療養化などの影響を織り込み、減収を見込んでいます。費用については、コスト最適化の継続により販売費及び一般管理費(コアベース)は910億円、対前期0.2%増を想定しています。また、将来の成長に向けた資源投下として研究開発費(コアベース)は270億円、対前期6.9%増と予想しています。製品構成や物価高騰に伴う原価率の上昇も想定した結果、コア営業利益は550億円と対前期12.4%減を見込んでいます。IFRS(フル)ベースについては、構造改革の完了によるその他の費用の減少などを見込み、営業利益は445億円、対前期15.5%増を予想しています。また、当期利益は335億円、対前期25.5%増を予想しています。業績見通しの前提となる為替レートについては、1USドル=155円、1ユーロ=165円、1中国元=21.3円を想定しています。

上記の業績予想は現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績

## ・成果と重要な成果指標・データ

は、事業環境の変化などさまざまな要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

### 2024年度予想コア営業利益増減要因



\*1 各地域およびグローバルでのR&Dや間接部門等の費用など、および地域事業以外の損益

※2024年8月6日の第1四半期決算発表において、為替レートを含む前提条件の変更により期初に開示した業績予想を修正しています。本ページには修正後の予想値を記載しています。

# 11年間の要約財務データ

単位：百万円

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS
<b>会計年度：</b>											
売上収益	146,260	161,831	195,291	199,096	224,942	234,026	241,555	249,605	266,257	279,037	<b>301,965</b>
売上原価	57,353	56,373	72,829	74,966	86,378	90,764	94,831	98,221	109,671	112,950	<b>123,256</b>
販売費及び一般管理費	41,642	48,893	59,406	62,193	68,788	71,273	73,360	79,554	84,499	96,257	<b>91,529</b>
研究開発費	16,862	17,477	19,990	22,786	24,398	23,759	23,341	24,112	26,377	28,297	<b>25,416</b>
営業利益(-は損失)	29,878	35,374	80,180	32,479	38,691	45,098	33,535	12,187	35,886	-3,090	<b>38,541</b>
コア営業利益	30,403	39,088	43,067	39,687	45,378	48,230	50,023	50,101	46,348	44,242	<b>62,778</b>
法人所得税費用	10,643	11,831	26,097	8,331	4,000	11,174	10,377	2,562	8,427	9,184	<b>3,171</b>
当期利益(-は損失)	19,718	24,032	53,373	21,724	35,261	31,943	21,714	9,126	27,189	-14,983	<b>26,703</b>
コア当期利益	19,813	25,948	29,163	29,125	33,458	36,092	35,894	37,549	35,195	33,235	<b>48,513</b>
<b>会計年度末：</b>											
資産合計	237,640	304,200	355,399	358,906	388,463	391,186	408,768	405,285	459,976	421,179	<b>435,699</b>
資本合計	187,210	211,779	260,009	255,929	287,557	292,572	302,560	309,646	336,844	293,297	<b>305,369</b>
負債合計	50,430	92,421	95,391	102,977	100,905	98,614	106,208	95,639	123,133	127,883	<b>130,329</b>
<b>キャッシュ・フロー：</b>											
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,686	25,386	22,525	10,843	42,843	32,894	39,947	38,808	46,043	37,147	<b>72,649</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	-7,847	-61,709	37,052	-28,201	-8,259	-2,935	-5,175	-53,355	-35,169	-26,777	<b>-6,145</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	-7,954	28,960	-24,066	-28,657	-17,631	-28,107	-12,729	-16,685	5,557	-37,220	<b>-34,031</b>
有形固定資産および無形資産の取得による支出	5,879	66,440	9,092	9,500	9,937	8,332	9,228	23,804	35,841	24,589	<b>10,686</b>
減価償却費及び償却費	2,841	6,958	9,338	9,882	10,896	10,969	16,573	17,498	17,055	17,249	<b>18,178</b>
フリー・キャッシュ・フロー <sup>*1</sup>	20,807	-41,054	13,433	1,342	32,906	24,562	30,719	15,004	10,203	12,558	<b>61,963</b>
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	2,855.4	309.8	230.9	206.6	1,573.6	4,330.0	210.1	244.6	191.6	79.9	<b>87.5</b>

• 成果と重要な  
成果指標・データ

\*1 フリー・キャッシュ・フロー＝[営業活動によるキャッシュ・フロー]－[有形固定資産および無形資産の取得による支出]



	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS	IFRS
<b>1株当たり情報<sup>1)</sup>(円) :</b>											
EPS(基本的当期利益)	47.78	58.18	128.99	52.96	86.73	78.67	59.16	23.30	68.07	-38.60	<b>72.59</b>
コアEPS	48.01	62.82	70.48	70.99	82.29	88.89	90.00	94.09	88.16	85.86	<b>132.13</b>
親会社所有者帰属持分	452.43	511.14	627.78	628.09	702.54	728.97	758.50	776.16	843.60	783.30	<b>843.24</b>
配当金	20.00	22.00	25.00	26.00	26.00	26.00	27.00	28.00	32.00	32.00	<b>33.00</b>
<b>財務指標など :</b>											
ROE(親会社所有者帰属持分当期利益率)(%)	11.1	12.0	22.6	8.4	13.0	11.1	8.0	3.0	8.4	-4.7	<b>8.9</b>
コアROE(%)	11.2	13.0	12.4	11.3	12.4	12.5	12.1	12.3	10.9	10.5	<b>16.2</b>
ROA(資産合計当期利益率)(%)	8.9	8.9	16.2	6.1	9.4	8.2	5.4	2.2	6.3	-3.4	<b>6.2</b>
親会社所有者帰属持分比率(%)	78.8	69.6	73.2	71.1	73.6	74.4	74.1	76.5	73.4	69.8	<b>70.2</b>
DELシオ(有利子負債 <sup>2)</sup> ÷ 親会社所有者帰属持分)(倍)	0.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	<b>0.1</b>
PER(株価収益率)(倍)	19.2	30.1	13.1	30.4	19.8	21.0	31.4	65.4	18.0	-29.3	<b>21.2</b>
配当性向(%)	41.9	37.8	19.4	49.1	30.0	33.0	45.6	120.2	47.0	—	<b>45.5</b>
期末発行済株式数(千株)(自己株式を含む)	82,583	82,653	414,192	406,173	406,848	399,782	400,028	400,369	400,695	375,886	<b>363,996</b>
従業員数(名)	3,072	3,230	3,463	3,667	3,805	4,073	4,108	4,229	4,315	4,144	<b>3,744</b>

\*1 当社は、2015年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しました。配当金を除く2013年度以降の1株当たり情報については、2013年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出しています。1株当たり配当金については、当該株式分割の影響を遡及して調整しています。

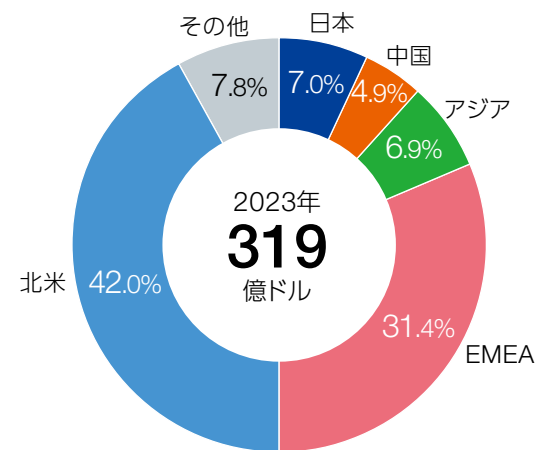
\*2 リース債務を除く。

• 成果と重要な  
成果指標・データ

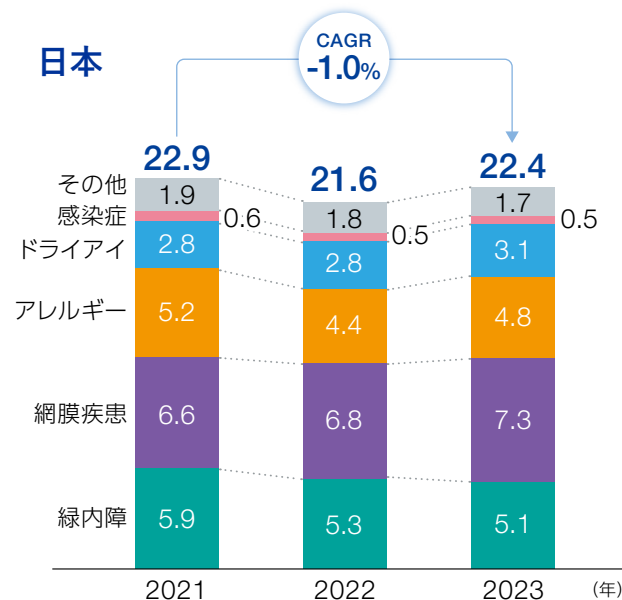
# 眼科薬市場データ

(単位：億ドル)

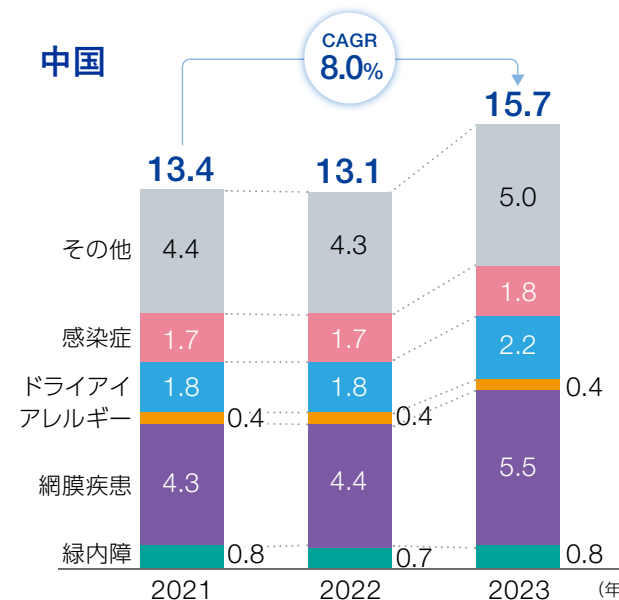
## グローバル



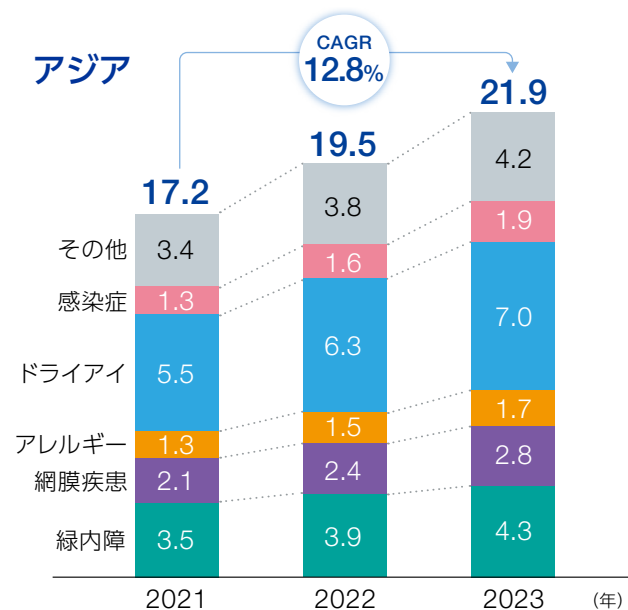
## 日本



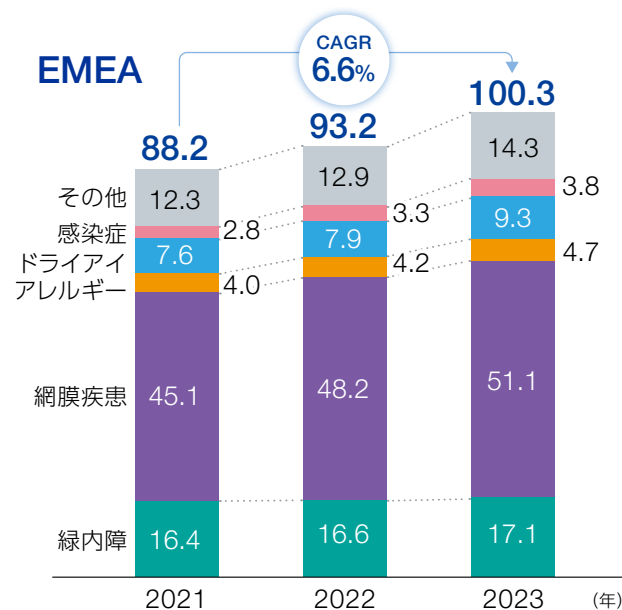
## 中国



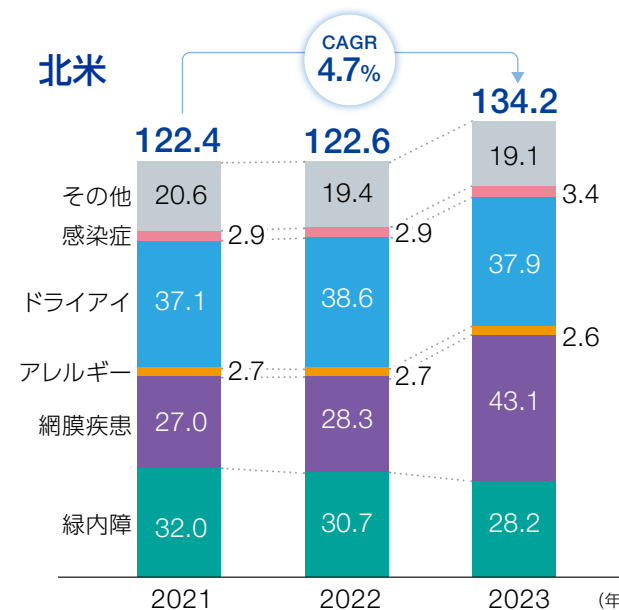
## アジア



## EMEA



## 北米



• 成果と重要な  
成果指標・データ

※出典：Copyright © 2024 IQVIA. IQVIA MIDAS 2021.1Q-2023.4Q を基に当社分析 無断転載禁止

# 株式情報 (2024年3月31日)

## 大株主の状況 (上位10名)

株主名	所有株式数 (千株)	出資比率 (%) <sup>*1</sup>
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	61,125	16.79
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	19,598	5.38
BNYM AS AGT/CLTS NON TREATY JASDEC	13,546	3.72
日本生命保険相互会社	10,662	2.92
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	9,560	2.62
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	7,851	2.15
GOVERNMENT OF NORWAY	7,155	1.96
株式会社三菱UFJ銀行	6,989	1.91
JPモルガン証券株式会社	6,292	1.72
小野薬品工業株式会社	6,204	1.70

## 年間の高値・安値

年度	2019	2020	2021	2022	2023
高値 (円)	2,234	2,216	1,718	1,251	1,590
安値 (円)	1,408	1,370	1,210	956	1,060

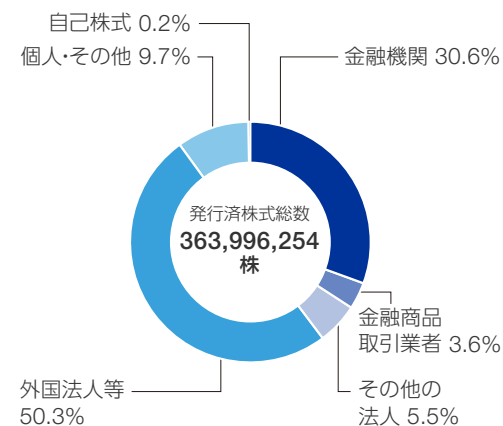
## 株主総利回り (トータル・シェアホルダー・リターン)

年度	2019	2020	2021	2022	2023
株主総利回り (%)	114.3	95.7	79.7	75.7	102.4
比較指標: 配当込み TOPIX (%)	90.5	128.6	131.2	138.8	196.2

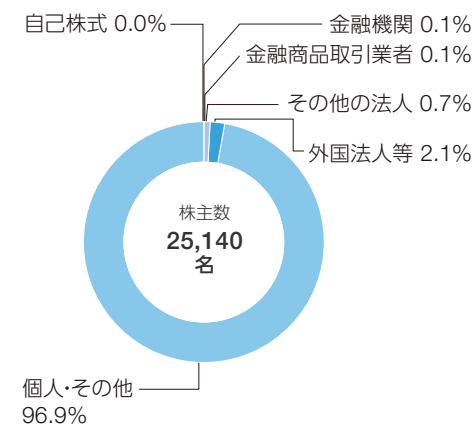
\*1 出資比率：自己株式を含む発行済株式総数に対する比率

## 株主分布状況

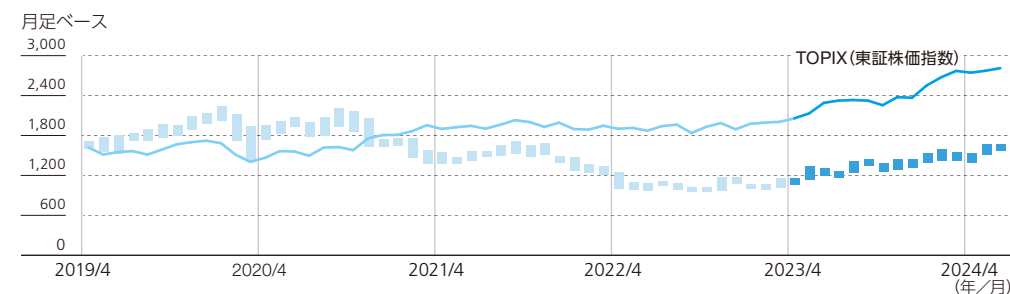
### 所有株式数別分布状況



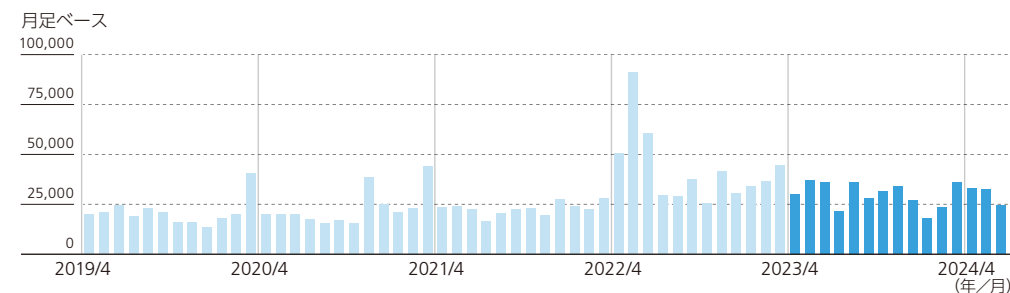
### 所有者別分布状況



## 株価の推移 (円)



## 株式売買高 (千株)



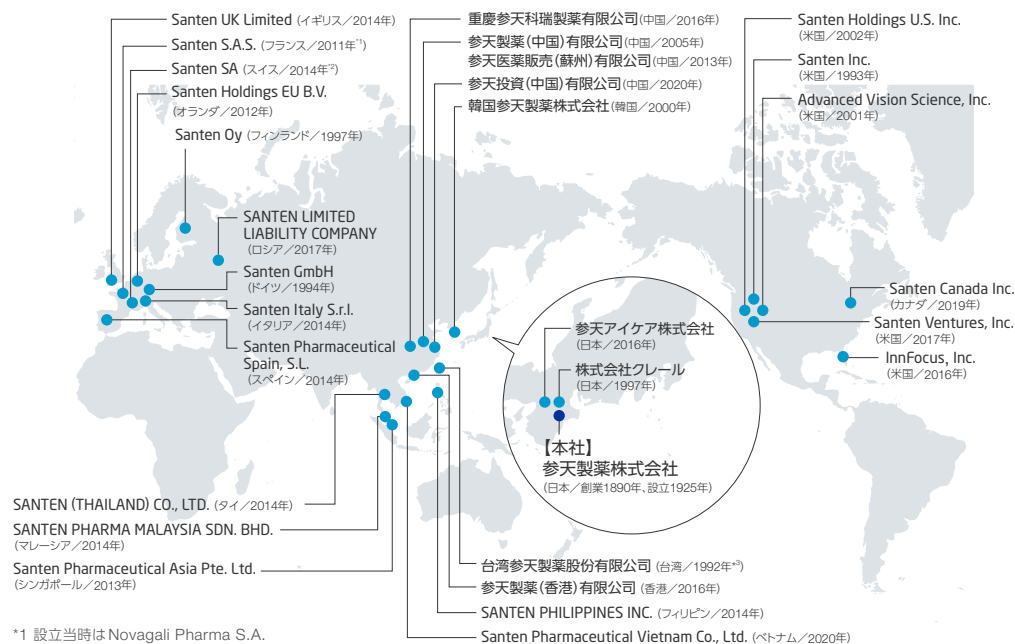
• 成果と重要な  
成果指標・データ

# 会社概要 (2024年3月31日)

本 社	参天製薬株式会社 〒530-8552 大阪市北区大深町4番20号 グランフロント大阪 タワーA
U R L	https://www.santen.com/ja
創 業	1890年
資本金	8,777百万円

従業員数	3,744名(連結)
発行済株式数	363,996,254株
株主数	25,140名
株式上場市場	東京証券取引所
証券コード	4536
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 TEL：0120-094-777

## 国内外の主要子会社 ( )内は所在地/設立年



\*1 設立当時は Novagali Pharma S.A.  
 \*2 設立当時は Santen Switzerland SA  
 \*3 設立当時は 大明参天股份有限公司

## ESGインデックスへの組み入れ状況

FTSE4Good Index Series



FTSE Blossom Japan Index



MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI日本株女性活躍指数(WIN)

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数(WIN)

SOMPO サステナビリティ・インデックス



S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数



FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan IndexはグローバルデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを測定するために開発されたものです。FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexはサステナブル投資のファンドやほかの金融商品の作成・評価に広く利用されます。

参天製薬株式会社のMSCI指数への組み入れ、および本ページにおけるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたは指数名称の使用は、MSCIまたはその関連会社による参天製薬株式会社への後援、保証、販促には該当しません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI指数の名称およびロゴはMSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

## 成果と重要な成果指標・データ